

西田恭子さん直伝

リフォームで

快
適
わ
が
家

第2回
二世帯住宅

親世帯と子世帯の ゾーン分けをどうするか

「一緒に暮らさない？」
そんなフコールに応えられるのかどうか。親子世帯が同居を考えたとき、家をどうするか第一の課題になります。

二世帯住宅へのリフォームも選択肢の一つ。その場合、最も大事な条件は、親子がしっかりと話し合いのできる仲であることです。2世帯がともに楽しく暮らす家につくりかえるためには、多くの決め事があるからです。

最初の決め事は、親世帯と子世帯のゾーン分けをどうするか。

トラブルの芽は 設計段階で摘んでおく

「こんなはずじゃなかった」という後悔だけはしたくないもの。予想される問題は設計段階で一つひとつ解決していきます。

たとえば、生活のリズムの違いから生じる音の問題は、トラブルに発展しがち。とくに上下階のゾーン分けの場合、子世帯が上階になるケースが一般的ですが、若い人は夜型が多く、部

完全分離の隣居スタイルにするとしても、左右で住みわけのなか、上下階でわけののかという選択肢があります。また、玄関や浴室など一部を共用するという選択肢もあります。

以前、私がリフォームを担当した二世帯住宅に、玄関や浴室は別々で、リビングは共用というケースがありました。それぞれにリビングを持とうとすればスペースも狭くなりますが、共用の場とすれば広々としたリビングをつくれます。また、リビングはともに暮らす楽しさを共有できる空間。楽しい部分は一緒に過ごし、設備関係は別々

屋を歩き回る音や入浴時の音は階下にかなり響きます。そこで、水回りは上下階で同じ位置にし、寝室の上に活動スペースがこないような間取りを設定し、音の出やすい場所には防音シートを張るなどの対処が必要です。

またインターホンや電話、ポストの共用も、意外とストレスになりやすいポイント。インターホンや電話が共用だと、お互いの交流関係が知ろうとしなくても気になったり、ポストが一緒



CASE1
親世帯が住んでいた2階建の家を二世帯住宅にリフォームしたケース。1階を親世帯、2階を子世帯とゾーン分けをし、玄関や水回りなどをすべて別々の完全分離スタイル。

にする。これは、私のお勧めポイントの一つです。
光熱費を考慮して浴室を一緒にするケースがよくありますが、実は浴室は双方にとってストレスのもとになりやすい場所です。「早く入れればいいのに」「冷めちゃうわ」「まだ入っているの」

の場合、新聞を取るが遅れば「援坊している」と思われそうに気遣います。玄関は共用しても、ポストとインターホンは別にするのも良策でしょう。

なお親世帯は、生活スペースが狭くなることを心得ておくことも大事。子世帯と同居するわけですから、面積が半分以下になることも多いもの。それを不満に思っのではなく、ホテルライクな暮らしの快適性をイメージしてみてください。また親世帯にとってこのリフォームは、終の住処を築くものであり、残したい物と整理する物をかけるよい機会にもなるはずですよ。

二世帯住宅のよさは、何といっても親子世帯が近くにいる安心感がお互いに大きいこと。そのうえで家族が何を大事にするかによって、リフォームの形はいかようにもかえられます。ともに暮らす家をより豊かな生活の場にするために、自分たちのスタイルをみんなで楽しく話し合っ

【二世帯住宅の隣居スタイル】

左右隣居
「隣居」の思想の基本となる左右で住みわけるタイプ。

上下隣居
親世帯を1階、子世帯を2階として、上下で住みわけるタイプ。

上下隣居(3階建)
上下で住みわけ、敷地対応力の高い3階建タイプ。

一部共用隣居(玄関)
居住スペースを上下で住みわけながら、玄関のみ共用するタイプ。

一部共用隣居(玄関・浴室)
上下で住みわけながら、玄関と浴室を共用。限られた敷地に適したタイプ。

今回のテーマは
「コンパクトな暮らし」
です。
お楽しみに!

三井のリフォーム
住生活研究所
Life Style Labo.

西田さんが所長を務める「三井のリフォーム 住生活研究所」は、2007年10月にオープンしたリフォーム業界初のシンクタンクです。研究所のスタッフ全員が女性のリフォームプランナーで、座談会形式の「リフォーム・サロン」やセミナー形式の「リフォーム・カレッジ」など、累計10万にものぼるリフォーム実績をもとに、さまざまな情報発信を行なっています。

東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー7階「リモ東東京」内
TEL:0120-312-122
営業時間：10:00～17:00（水曜・日曜・祝日定休、年末年始休業）
www.lifestyle-labo.com

「三井のリフォーム住生活研究所」所長
西田恭子(にしだ・きょうこ)さん
住宅リフォーム設計を手がけ25年。その経験からリフォームの情報収集・分析をし発信している。一級建築士